

第2回学校運営協議会の報告

10月19日（火）午後、第2回学校運営協議会を開催しました。学校ごとの分科会に分かれ、今年度の学校運営計画についての中間報告と、委員間の意見交換が行われました。



八峰
コミ
スク
通信

令和3年度
第10号
R3/11/5
CSディレクター
工藤

●八森小学校分科会

- ・秋田県が進めている探究型授業は、教員の異動があってもうまく引き継がれている。
- ・ICT教育では、先生方からの発案で新しい使い方等の活用事例もでてきている。
- ・「タブレットに慣れている児童と、慣れていない児童とに学習の差ができるのでは」との心配の声があったが、タブレットの持ち帰り等が検討されている。
- ・『PTA親子でジオサイト』が非常に好評だった。親子にとって良い行事だった。
- ・校内に掲示している『あったか言葉の木運動』は、とても素敵で感心した。
- ・春・秋のマラソン大会では、児童に「目標」を持たせることで真剣度が向上した。

●峰浜小学校分科会

- ・後半重視型の授業を行っていて、学びを深くすることに重点を置いている。
- ・ふるさとキャリア教育では、各学年とも地元団体と連携がとれていて非常に充実している。
- ・毎週、6年生が全校児童の前で行うミニスピーチは、「考えを伝える」ことに役立っている。
- ・道徳の時間の充実によって、思いやりの心が育っている。
- ・峰浜ポンポコ子ども園とは、連携して交流等をおこなっている。
- ・峰浜小学校としては、もっといろいろな活動と情報発信をしていきたい。



●八峰中学校分科会

- ・『生徒指導』『学習指導』『ふるさと・キャリア教育』の達成状況、評価等は順調。
- ・生徒たちの『主体的に学ぶ・活動に取り組む姿勢』は、それを支える先生、ICT、ALT、特別支援員、教育支援員等の連携があつての成果。新しい課題も見えてきた。
- ・コミュニティ・スクールが5年目に入り、年間のスタイルや、委員・団体・学校とのつながりが出来てきている。これを地域の人にどう広げていくかが課題。
- ・『はっぼう あったか おもいやり運動』や『ふるさと・ジोटレッキング』等で、地域の人からも協力の声が出てくると嬉しい。

◎会長・教育長のコメント

会長：コミュニティ・スクールは、「子どもたちのために何かできるか考える会」でありたい。

教育長：コミュニティ・スクールをもっと地域の人たちから理解していただき、浸透させていきたい。

●八峰中学校の”市”

10月31日（日）午前中、八峰中学校の前庭で市（いち）が開かれました。

市では、八峰中2年生の『町名産品の販売』、同3年生の『オリジナル開発商品の販売』、峰浜小4年生の『サシエの販売』、5年生の『峰っ子米の販売』が行われていました。なお、中学1年生も運営スタッフとして参加しました。

開場前から、保護者や関係者、クチコミで知った人たちが、約150名が待機し、開場とともに各ブースへ。児童・生徒たちの呼び込みと、買い求める人たちで、開場は熱気に包まれました。人気ブースでは、即効で売り切れになるところも。来場した人たちの買い物袋は、どれもパンパンでした。

1時間半でほとんどの商品が完売し、「残り物には福がある」と先生方から愛の手もあり、市は成功裏に終わりました。児童・生徒のみならず、頑張りました。教職員や、協力いただいた会社・関係者のみなさん、お疲れさまでした。そして、ありがとうございます。



Dのあっちこっち見聞録